

## 令和元年司法試験 合格体験記

平成28年度修了（未修コース）宇都宮 和馬

皆さんはじめまして。11期未修の宇都宮和馬と申します。この度令和元年司法試験に、3年目3回目で合格しました。

未修1年目では、慣れない授業の予習・復習に追われ、未修2年目では慣れない起案課題に追われ、未修3年目では発展的内容の授業に追われ、いつも何かに追われる日々でした。

そのような中で1回目の本試験を受けます。結果は、ボーダー800点のところを727.27点を取り、合格者数1543人のところを2361位で落ちます。これまでの勉強方法を見直し、今まで受けていなかった予備校の答練を受けることにしました。

2回目の本試験では、ボーダー805点のところを801.87点を取り、合格者数1525人のところを1552位で落ちます。落ちた瞬間は大変落ち込みましたが、成績通知書を見て、自分の実力が間違いなく前進していることがわかり、前向きな気持ちになりました。

そこで、更なる勉強方法の見直しを図りました。予備校の答練に加え、他の受験生と一緒に過去問中心の自主ゼミを行い、自分だけがわかったつもりで実は間違っているような点を洗い出し、徹底的に過去問を研究し、予備校の答練で実力を確認するという日々を送りました。

3回目の本試験では、ボーダー810点のところを988.40点を取り、合格者数1502人のところを277位で合格しました。

3回目の受験勉強で痛感したことは、これまで「誰が言っているかよりも、何を言っているか」を重視していましたが、受験対策という観点からは、「何を言っているかよりも、誰が言っているか」を重視した方が勉強の効率が上がったように感じた点です。いわば受験業界における法的正しさは、権威の重さで決まっているような気がしました。

これまで私を支えてくださった家族、友人、諸先生方、大学院の職員の皆様には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。